種子島家文書

【所　在　地】西之表市西之表 7585　種子島開発総合センター（個人所有）
【種　　別】県指定有形文化財（書跡）
【指定年月日】昭和 30 年１月 14 日

種子島家は近世初期の一時期を除き，鎌倉初期より明治にかけて種子島の島主であった。その間の中世～近世初期の原文書は，第２次大戦中，鹿児島市で戦災により一部焼失したが，それらの写しを含む『種子島正統系図』20 冊，『種子島家譜』89 冊をはじめとして『種子島譜』，『種子島氏庶流系図』などの系譜類のほかに『慶長十六年高帳』，『種子島家年中行事』や明治年間の日記類などが多数伝存されている。

このうち，文化財の主対象は系譜類で，その成立は，・『種子島譜』→・『種子島正統系図』→・『種子島家譜』の順である。・は，延宝５（1677）年，上妻隆直の編集で初代島主信基から 16 代島主久時まで。・は，明和６（1769）年，平山顕友の編集で初代島主より 21 代島主久芳まで。・は，寛政 10（1798）年に上妻宗恒らが編集に着手し途中断続し，文化８（1811）年に完成する同７（1810）年までの部分と，それ以降編集される明治 24（1891）年までの分よりなっている。

かつての島の政治，経済，産業や生活を知るうえで非常に貴重な資料である。